

## 【研究課題】

# 心臓性突然死に寄与する心肥大の実態解明

研究期間：2020年4月1日～2021年12月31日

心肥大は循環器疾患による死亡(Cardiovascular death; CVD)の危険因子である。心電図や心エコー等の臨床検査では心肥大診断の基準値が示されているが、解剖時に測定される心重量については、心肥大診断の基準値は確立されていなかった。

本研究では、2017年から2019年に東京都監察医務院で解剖された6,295症例のうち、腐敗や損傷の影響が少なく、死亡状況と組織学検査等から確定診断がついた3,534症例(男性2,454例、女性1,080例)を対象とした。虚血性心不全、高血圧性心不全、弁膜症、心筋炎、大動脈解離、大動脈瘤破裂、肺塞栓症、脳出血、クモ膜下出血、脳梗塞をCVDに分類した。初めに、non-CVD群において、年齢、性別、体格と心重量の相関を検討した。次に、成人例のROC曲線解析を行い、CVDに寄与する心重量閾値を算出した。

その結果、未成年の心重量は年齢と相関して増加していたが、成人の心重量に年齢と関連した変化はなかった。成人におけるnon-CVD群の平均心重量は、男性385g、女性320g、CVD群では男性473g、女性379gであった。CVDに寄与する心重量閾値は、男性407g(オッズ比4.2)、女性327g(オッズ比2.6)、体格補正值(心重量/身長)は、男性2.4g/cm(オッズ比4.0)、女性2.2g/cm(オッズ比2.6)であった。本研究で示された心重量の基準値は、解剖学的心肥大の客観的な評価に役立てられる。